



桜山小だより

【学校教育目標】

- ・(知) 夢を持ち楽しく学ぶ子
- ・(徳) 心豊かに思いやる子
- ・(体) 健康でたくましい子

～ともに夢を育む感動体験を通して～

10月号

令和7年10月23日発行
校長 ニロ 法子

桜山小学校HP 桜山

桜山小学校HP 桜山
http://www.sakurayama.k12.jp/school/

「さくらんピック」応援ありがとうございました

10月10日(金)の「さくらんピック(運動会)」に際し、多くの保護者、来賓の皆様にご参観いただきまして誠にありがとうございました。



子どもたちは協力して本番に向けた練習に取り組んでいました。運動会はこれまでの体育の授業と、子どもたちが有している夢中になる力や、友達と一緒に動く喜びを引き出す授業づくりの成果発表という位置づけはもとより、友達と協力して目標(心を一つにして競技・演技をする)を成し遂げるという意味合いが強いと感じています。

その運動会の練習の時間、子どもたちから「体験的に学ぶことによって培われる心の力」を強く感じるときがありました。その力とは、「自立心」「自己抑制力」「責任感」「共生」「寛容」などであり、体験という人の根本・根底で考え学ぶ(つくる・表現する)ということから得られる力だと考えます。また、そのような体験から獲得する力は揺るぎない力ですから、難問に直面した時に応用がききます。ましてや、その力が運動会という大きな行事の中での学びですから、自信にもなります。自信は、「やればきっとできる」という心の力につながっています。そのような運動会になっていることを望んでいます。

また、このような心の力は、日々の学習や生活におけるさまざまな活動の中でも目標を達成した時に培われる力であり、その経験が自信につながります。もちろん、努力が報われないこともあります。それではどうすればよいか。子どもがあきらめないで努力するためには、何より「好き」にさせることであり、次のような流れをつくることが大切です。「好き→取り組む→できる→ほめる→さらに取り組む(続ける)→もっとできる→もっとほめる→ますます好きになる」。私たち大人は、子どもをこの良い流れに導き、循環させてあげることが大切な役割になるものと考えます。また、機を捉えて経験談を聞かせてあげることも大人が子どもに範を示すものと考えます。

学校からの電話着信について(お願い)

体調の急変等でお子様のお迎えにご協力いただきありがとうございます。



教育活動の途中で体調不良等で学習を継続することが困難な状況となつた際には、お迎え要請のため日中であってもあらかじめお知らせいただいている連絡先に連絡を差し上げております。できるだけ早い引き渡しを考えていることから、つながるまでいたいでいる連絡先全てに連絡を差し上げることもございます。お伝えいただいている第一連絡先は携帯電話が多く、皆様におかれましては気づいても出られない、身近に携帯電話を置くことができず着信に気づけない等、状況は様々あると存じます。しかしながら学校の着信に気づいた際はできるだけ早急に折り返しのご連絡をいただけますと幸いです。

日中の学校からの着信は受け流さず、気に留めていただきますようお願いいたします。

